

令和 5年度（4年度実施分）事務事業目的評価表

様式1-1

記入日

令和05年05月31日

1 事務事業 の 現 状 P L A N 及 び D O	事務事業名		No.	232	産業フェスタみよし実行委員会補助事業							
	この事務事業の位置		政策	魅力と活力があふれるまち								
			施策	地域の農業を守り、次代につなげよう								
			基本事業	地産地消								
	主管課名		産業振興課			課長名	岩下 幸江					
	この事務事業の開始時期		昭和50(1975)年代			事務区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務					
	この事務事業の根拠法令		産業フェスタみよし実行委員会規約									
	事業の概要					現在の状況とこの事務事業を行う根拠または理由						
	・市民に対する市内産業の周知事業の一環として、農工商業者が一堂に会し地場産物の販売やイベントを実施する。併せて、広く市民に友好提携市町の産業を知っていただく機会として、提携市町の物産展を開催する。その実施主体である実行委員会に対し、開催経費を補助する。 「SDGsの取り組み：2, 9, 12, 17」					(現在の状況) ・令和元(2019)年度参加団体：113団体 ・令和元(2019)年度来場者数：約39,000人 ・令和2(2020)年度 中止 ・令和3(2021)年度 中止 ・令和4(2022)年度参加団体：86団体 ・令和4(2022)年度来場者数：約35,000人 (事業の必要性) ・市民に市内産業及び提携市町の産業を知っていただく機会として必要である。						
	R4年度に実施した具体的な事業の方法、手順、指標に対する成果等			5月24日(火)に産業フェスタみよし実行委員会総会を開催。8月28日(日)各部会の計画を取りまとめ。新型コロナウイルス感染症対策を実施して11月6日(日)の産業フェスタみよしを開催した。8月28日(日)の北海道士別市産業フェアに参加した。								
事務事業を取り巻く状況は過去と比べ変化しているか					(1)活動指標(事務事業の活動量を表す指標)							
変 化 内 容	内容自体は大きく変わっていないが、ステージイベントや商工会の職業体験コーナー等、時代に合わせて変化させている。				名称		単位					
					① 産業フェスタみよしの開催数	回	②					
対象(この事業の対象、範囲となる人、物)					(2)対象指標(対象の大きさを表す指標)							
市民 参加団体					名称		単位					
					① 人口	人	② 参加団体数	団体				
目的(この事業によって上記対象をどのような状態にしたいのか)					(3)成果指標(目的の達成度を示す指標)							
多くの市民に会場してもらい、地場産物のPRを通して地産地消を推進する。その為により多くの団体の参加を促す。					名称		単位					
					① 来場者数/人口	%	② 愛知県産品出店数	団体				
結果(上位基本事業の意図)					(4)結果の成果指標(上位基本事業の成果指標)							
安全な地元農産物の地域内消費を増やす。					名称		単位					
					① 愛知県産品目数/全品目数	%	②					
事務事業の各種指標の実績と見込及び目標												
指標 \ 年度		単位	R3年度 実績値	R4年度 計画値	R4年度 実績値	R5年度 計画値	R6年度 目標値	R7年度 目標値	R8年度 目標値			
(1)の 活動指標		① 回	0	1	1	1	1	1	1			
		②										
(2)の 対象指標		① 人	61,218	62,360	61,375	61,656	61,938	62,219	62,500			
		② 団体	0	115	86	115	115	115	115			
(3)の 成果指標		① %	0	64	57	64	64	64	64			
		② 団体	0	46	41	46	46	46	46			
(4)の結果の 成果指標		① %	0	40	48	40	40	40	40			
		②										
予算費目		会計	01 一般会計				款	06	項	01	目	01
コスト		年度	R3年度 実績値	R4年度 計画値	R4年度 実績値	R5年度 計画値	R6年度 目標値	R7年度 目標値	R8年度 目標値			
事業費(決算又は予算額)A		単位	0	9,000	8,232	11,000	11,000	11,000	11,000			
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	一般財源	千円	0	9,000	8,232	11,000	11,000	11,000	11,000			
人件費B		千円	4,919.6	7,167.6	7,167.6	6,863.5	6,863.5	6,863.5	6,863.5			
正職員従事時間×人数		時間×人	453×3	495×4	495×4	474×4	474×4	474×4	474×4			
正職員以外の人件費		千円	0	0	0	0	0	0	0			
その他の費用C		千円	0	213	101	180	180	180	180			
トータルコストA+B+C		千円	4,919.6	16,380.6	15,500.6	18,043.5	18,043.5	18,043.5	18,043.5			
単位あたりコスト		① 千円/人	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3			
(トータルコスト/(2)の対象指標)		② 千円/団体	0	142.4	180.2	156.9	156.9	156.9	156.9			

事務事業名	No.	232	産業フェスタみよし実行委員会補助事業
-------	-----	-----	--------------------

2 評価 CHECK	この事業の必要性は薄れていませんか。十分な成果が得られていますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 得られている <input type="checkbox"/> 得られていない	理由	市内産業の周知する機会として、農工商業者が一堂に会する産業フェスタの意義は大きい。
	事業進展等による環境変化に伴い、対象を見直す（拡大・縮小）必要はありませんか？	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	その理由	職業体験コーナーのように子供向け、ファミリー層の集客に繋がるイベント等を時代に合わせて催すことが必要である。
	事業進展等による環境変化に伴い、目的を見直す（目的の追加・拡充又は絞込）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	目的は、市内産業の周知・PR及び産業の発展で変わらない。
有効性	今以上に事業の成果を向上させる方法を記入して下さい。 ※(3)の成果指標を向上させることはできますか？	内容	より地場産品を扱う出店者を増やす。	
	目的達成状況	内容	令和4（2022）年度 参加団体：86団体、来場者数：35,000人 愛知県産品出店数：41団体	
	市関与の必要性（実施手法）	内容	<input type="checkbox"/> 民間への一部委託 <input type="checkbox"/> 民間への全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金助成 <input type="checkbox"/> 市の直営 産業フェスタみよし実行委員会補助金	
効率性	事務事業の統廃合により、事業の効率化を図り、成果を向上させる方法を記入して下さい。	内容	さんさんの郷イベント実行委員会が開催していた「ふれあいふれあいフェスタ」を令和2年度をもって事業を終了し「産業フェスタ」に統合し廃止した。	
	現状より事業費・人件費を削減する方法を記入して下さい。（仕様の変更、外部委託、従事時間の削減等できないか？）	内容	会場設営の業務委託範囲を拡げれば、委託費は上昇するものの、職員の人件費削減に通じる。	
公平性	受益者負担はありますか？ また、受益者負担割合は適正ですか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> 現状で適正 <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> 検討が必要 <input type="checkbox"/> 受益者がいない	内容	入場料等を徴収できるような事業ではない。

3 改革 改善 案 ACTION	事業実施上の課題、住民・議会等からの意見と対応策	意見	・来場者の安全対策と会場近隣の路上駐車対策。 ・イベント会場の整備。 ・明越会館の工事による臨時駐車場の減少。	対応策	・来場者への安全対策の強化。 ・ふれあい広場の整備及び維持管理。
	R5年度の事業計画は前年度から変更・追加はあるか	前年度	産業フェスタみよしにて地場産品の販売、土別市産業フェアへの参加。	変更追加	コロナ前の通常開催に戻す。
	今後の事業・コスト・成果の方向性	今後の事業の方向性、改革・改善案 ※今年度からの具体的な事業の進め方、手段の見直し等、各方向性の内容 ・コロナ前の通常開催戻す。 ・イベント会場（ふれあい広場）の雨天時対応及び維持管理。			
	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 廃止・休止				
	コストの方向性	→ 維持			
	成果の方向性	→ 維持			

令和 5年度（4年度実施分）事務事業目的評価表

様式1-1

記入日

令和05年05月31日

1 事務事業 の 現 状 P L A N 及 び D O	事務事業名		No.	233	食育推進事業							
	この事務事業 の位置		政策	魅力と活力があふれるまち								
			施策	地域の農業を守り、次代につなげよう								
			基本事業	地産地消								
	主管課名		産業振興課			課長名	原田 久三					
	この事務事業の開始時期		平成19(2007)年			事務区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> 自治事務					
	この事務事業の根拠法令		食育基本法									
	事業の概要					現在の状況とこの事務事業を行う根拠または理由						
	食育推進計画に基づき市民一人ひとりが食の大切さを見直し、健康で心豊かな生活が送れるよう事業を推進する。 また、平成30(2018)年度に策定した第3次食育推進計画に基づき、各種事業の中間評価と進行管理を行った。 「SDGsの取り組み：2、4、12」					食育とは、生きる上での基本であって、「知育」、「体育」、「徳育」の基礎となるべきものとされているが、昨今の子どもの多くに偏食、朝食の欠食などが顕著に見られるようになり、「食育」の重要性が叫ばれるようになり、本市においても、食育推進会議を設置し、国や県の計画を基本とした食育推進計画を平成20(2008)年度に策定し、5年毎に見直しを行っている。						
	R4年度に実施した具体的な事業の方法、手順、指標に対する成果等			食育推進計画に基づき食育関係事業の進捗状況の進行管理 食育推進会議の開催 食育講演会の開催								
事務事業を取り巻く状況は過去と比べ変化しているか					(1) 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）							
変 化 内 容	現在事業途中のため現状のまま継続して実施				名称		単位					
					① 食育推進会議		回					
					② 新規食育推進事業		事業					
対象(この事業の対象、範囲となる人、物)					(2) 対象指標（対象の大きさを表す指標）							
市民					名称		単位					
					① 人口		人					
					②							
目的(この事業によって上記対象をどのような状態にしたいのか)					(3) 成果指標（目的の達成度を示す指標）							
保育園、学校給食における地場産物の積極的な利用					名称		単位					
					① 学校給食等での地場産物利用割合		%					
					②							
結果(上位基本事業の意図)					(4) 結果の成果指標（上位基本事業の成果指標）							
食を通して、健康な体、豊かな心、環境に優しい暮らしを築くため家庭、学校、地域などで食育を推進する。					名称		単位					
					① 食育の普及に関する事業活動数		事業					
					②							
事務事業の各種指標の実績と見込及び目標												
指標 \ 年度		単位	R3年度 実績値	R4年度 計画値	R4年度 実績値	R5年度 計画値	R6年度 目標値	R7年度 目標値	R8年度 目標値			
(1)の 活動指標		① 回	1	1	1	5	1	1	1			
		② 事業	0	1	0	1	1	1	1			
(2)の 対象指標		① 人	61,236	61,218	61,375	61,656	61,938	62,219	62,500			
		②										
(3)の 成果指標		① %	37	38	38.9	40	41	42	43			
		②										
(4)の結果の 成果指標		① 事業	94	112	92	94	96	98	100			
		②										
予算費目		会計	01 一般会計				款	06	項	01	目	01
コスト		年度	R3年度 実績値	R4年度 計画値	R4年度 実績値	R5年度 計画値	R6年度 目標値	R7年度 目標値	R8年度 目標値			
事業費(決算又は予算額) A		単位	388	966	927	4,400	1,024	1,024	1,024			
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0			
	一般財源	千円	388	966	927	4,400	1,024	1,024	1,024			
人件費 B		千円	2,172	2,172	3,550.6	9,958	3,550.6	3,550.6	3,550.6			
正職員従事時間×人数		時間×人	200×3	200×3	310×3	540×5	310×3	310×3	310×3			
正職員以外の人件費		千円	0	0	184	184	184	184	184			
その他の費用 C		千円	0	0	0	0	0	0	0			
トータルコスト A+B+C		千円	2,560	3,138	4,477.6	14,358	4,574.6	4,574.6	4,574.6			
単位あたりコスト		千円/人	0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1			
(トータルコスト/(2)の対象指標)		千円/	0	0	0	0	0	0	0			

様式1-2

事務事業名		No.	233	食育推進事業		
2 評価 CHECK	目的 妥当性	この事業の必要性は薄れていませんか。十分な成果が得られていますか？	<input checked="" type="checkbox"/> 得られている <input type="checkbox"/> 得られていない	理由	食育を通じて、食品の安全性や食品ロス削減等の基礎知識及び栄養バランスに配慮した食生活を実践する割合が増えている。	
		事業進展等による環境変化に伴い、対象を見直す（拡大・縮小）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	市民が対象であり見直す必要はない。	
		事業進展等による環境変化に伴い、目的を見直す（目的の追加・拡充又は絞込）必要はありませんか？	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	その理由	地場産物利用割合は着実に上昇しており、目的を見直す必要はない。	
	有効性	今以上に事業の成果を向上させる方法を記入して下さい。 ※(3)の成果指標を向上させることはできますか？	内容	食育に関する取組を高めるために、食に関わる関係者が、互いが連携、協力して事業展開を進めることが必要。		
		目的達成状況	内容	食の大切さに対する認識を深め、日常生活の中で実践できる人が増えること。		
		市関与の必要性（実施手法）	内容	<input type="checkbox"/> 民間への一部委託 <input type="checkbox"/> 民間への全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金助成 <input checked="" type="checkbox"/> 市の直営 各関係団体と協働で食育を推進する。		
	効率性	事務事業の統廃合により、事業の効率化を図り、成果を向上させる方法を記入して下さい。	内容	統廃合は出来る事業は無い。		
		現状より事業費・人件費を削減する方法を記入して下さい。（仕様の変更、外部委託、従事時間の削減等できないか？）	内容	現状より、事業費・人件費の削減は出来ない。		
	公平性	受益者負担はありますか？ また、受益者負担割合は適正ですか？	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> 現状で適正 <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> 検討が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者がいない	内容	直接的な受益者はなし	
	3 改革 改善案 ACTION	事業実施上の課題、住民・議会等からの意見と対応策	意見	食の大切さに対する認識はあるが、日常生活の中で実践できている人が増えていない。	対応策	食の大切さを再認識し、市民が一人ひとりが食育を実践できるよう周知を行っていく。
R5年度の事業計画は前年度から変更・追加はあるか		前年度	食育推進会議を開催し、食育推進計画に基づく食育関係事業の進捗状況の進行管理を行った。 食育講演会を開催した。	変更・追加	第4次食育推進計画の策定。	
今後の事業・コスト・成果の方向性			今後の事業の方向性、改革・改善案			
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 廃止・休止			※今年度からの具体的な事業の進め方、手段の見直し等、各方向性の内容 食を通じて健康な体と豊かな心を育むため、食の大切さを再認識し、市民一人ひとりが食育を実践できる施策を講じる。			
コストの方向性			↓ 減少			
成果の方向性			→ 維持			